

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名

こすもけあくらぶ (放課後等デイサービス)

公表日 2025年3月29日

利用児童数 15

回収数 9

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9					今後も室内を広く使えるように安全に留意していく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	9					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	9					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8	1				固定化しないよう、学期ごとに活動計画を立案し、季節等に合わせた活動プログラムを工夫している。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	3		1	5		基礎疾患のある方や医ケアのある方にとって、地域の他の子どもとの交流はなかなか難しい。
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	4			5		今後、検討していく。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	9					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9				面談の時間があつた。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	2	1	4		保護者会はありませんが、今後も保護者の皆様のご意見をできるだけ取り入れていく。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8			1	定期的に出すお便りの中で、当会のホームページの内容の紹介を進めていく。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8	1			写真の掲載、メディアへの配慮等、保護者に確認し、同意（不同意）をとっており、今後も十分気を付けていきたい。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9				
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	9				
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9				
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	9				
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9				今後も、工夫した楽しい活動を取り入れていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	9			いつもお世話になっています。ありがとうございます。	常に誠意をもって利用者に関わっていく。

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	こすもけあくらぶ (放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 10日		~ 2025年 2月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2025年 1月 10日		~ 2025年 2月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ミーティング、カンファレンスに参加して、支援の共有をする と共に、意見を出し合い、日々の支援にあたっている。	看護師や支援員、専門職員等がそれぞれの専門性を活かし、 利用者に積極的に関わっている。	利用者のニーズにより柔軟に対応できるように、職員間での 細やかな情報の共有や統一した支援、各種の研修への参加等 を積極的に行なっていく。
2	入浴の合間に様々な活動提供をしたり、長期休業中は、同じ法 人内の生活介護利用者との交流も心がけている。	支援計画書に基づき、個々に合った支援や興味関心を引きそう な各種の活動を提供すると共に、生活介護利用者と合同で活動 できる日を定期的に設けることで、交流が深められるようにし ている。	触って気持ちいい、聞いて心地良いものを探し出したり、よ りリラックスした時間が過ごせるよう、利用者に合わせて柔 軟に対応していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者の健康や発達状況について保護者との共通理解ができ ていないことがあったり、職員間で利用者への支援情報の共 有ができていないことがあり、時として、利用者に対する統一 した支援が、職員間で徹底できていない場合がある。	保護者からの連絡や意向が担当職員に直接伝えることができな かったり、放デイ前にミーティングの時間がとれない日があ る。又、終了後も、職員の退勤時間もバラバラで振り返りの時 間がとれない日もある。	連絡帳等を通しての情報交換やお迎え時の保護者との意思疎通の場を、より 大切にしていく。業務日誌を活用したり、日々の記録を元に他の職員も統一 した支援を行うことができるように、できるだけ放デイ前のミーティング等 で周知徹底する。 終了後も支援の変更等あった場合は、その日のうちに振り返り、反省する時 間を設けていく。
2	個別活動のできる部屋、場所がない。	活動室が1つでワンフロアの為、清潔ではあるが、動的な活動 をする場合には活動スペースが狭い。	ワンフロアで区別できない為、生活空間の認識を子どもの立 場で考え、支援や手順を工夫していく必要がある。 特に車椅子同士で接触しないように、間隔を空けるように心 がける。
3			

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名		ごすもけあくらぶ (放課後等デイサービス)		公表日		2025年 3月 29日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	2	車椅子から降りたら片づけることで、広く保っている。	少し狭い。特に車椅子同士で接触しないように、間隔を空けるように心がける。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9	1	配置は工夫されていると思う。十分だと思う。	一人の職員が複数人の利用者を担当する日もあるので、安全に過ごしたい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1	段差がほぼなくバリアフリーになっている。快適な入浴を心がけている。	ワンフロアで区別できない為、生活空間の認識を子どもの立場で考えていかななくてはならない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9	1	心地良く過ごせる空間である。	清潔ではあるが、動的な活動をする場合には多少狭い。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	3		個別の部屋、場所がない。活動室が1つで個別に過ごすことが必要の際は難しいが、支援内容や手順を工夫しながら行っていく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	9	1	ミーティング、カンファレンスで参加して、共有している。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9	1	面談により意見を伝えられる機会があり、日常的にも疑問に思うことや判断に戸惑うことは相談している。又、カンファレンス等で意見を出し合い改善している。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	3			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9	1	研修の機会が確保されており、積極的に受講している。多種類の研修の紹介や対面での研修会が実施されている。		
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	1	支援プログラムの掲示と共に、適宜説明をしている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9	1			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		カンファレンスやミーティングで共有・検討ができています。検討されている。共通理解がなされている。カルテの記録や職員からの聞き取りした最新の内容も取り入れて作成している。		
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		共有されている。学期毎に活動計画があり、おおまかに計画に沿った支援がされている。個別の取り組みは、時間が短いので、十分行えない部分があるができる範囲で実施している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1	9			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		具体的かつ適切に設定されている。支援内容に変更が出てきた場合には、速やかに対応・修正するように心がけている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1		チームで関われるように積極的に声がけしていく。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		複数の案が提示され、その中から状況に応じて活動内容が決められている。毎回異なる活動をしている。多様なプログラムが用意されている上に、活動リーダーを固定化しない等工夫している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10		リーダーを中心に活動を行い、常に職員間で意見が言えるように配慮している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	3	必ずという訳ではないが、ボードで担当を確認している。支援できていると思う。	毎日話し合えていない。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	5	気づいたことがあれば、業務日誌に記入し共有している。	できていない。 必ずその日にはできないが、支援の変更、保護者からの連絡はその日のうちに共有していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		日誌やカルテに記録し、担当する際に見直す。	カルテへの記録は、簡潔明瞭にし、次の支援につながるようミーティング等で連絡する。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	1		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	9	1		リーダーに声がけて、活動内容の確認を適宜行うようにする。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9	1	創作活動等で、自己選択、自己決定できるように配慮し、支援している。	
	関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10		
27		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9	1		支援会議を中心に、各方面と連携していく。
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10			引き続き、学校とは電話やメール等を通して、連絡を密にしている。
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10			
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10			学校の進路や担任の先生を中心に、いろいろな可能性を考慮して連絡・調整していく。
31		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	9	1		
32		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	6		常に感染症対策が必要なので、難しい課題だと考えている。
33		（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10			今後も、積極的に参加し情報の収集を図る。
34		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	10		連絡ノートの利用、送迎時にその日の活動や様子を伝えている。 共通理解されている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	8			
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		丁寧な説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		子どもの意思を把握する難しさが、保護者の意向を優先しがちになるので注意しながら支援にあたっている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10		限られた時間ではあるが、分かりやすく丁寧な説明をしていると思う。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1	9		保護者会等の開催が保護者を含めた家族の負担増につながる。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		適切に対応していると思う。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	9	1		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		連絡先や障害名等、十分に留意していると思う。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	1	スイッチやiPad等を活用している。	難しい。子どもの表情の読み取りは、とかく職員の主観となりがちで正しく理解できているか検討が必要。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	1	毎年こすもフェスタのポスターを放デイや地域に宣伝し、放デイ利用者も参加できるようにしている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		状況に応じて、定期的実施している。実際の活動場面を想定した訓練を定期的に行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		アラーム音を流し緊急の雰囲気の中で定期的に実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10		今後も、医療情報を含めた多くの情報をカルテに集約している。	今後も、医療情報を含めた多くの情報をカルテに集約していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		月毎の安全点検を確実にし、破損・修理箇所がある場合には、職員間で情報を周知徹底している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		朝のミーティングで報告・検討し、ファイルを確認している。ヒヤリハット事例を大切に扱っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		わかりやすい研修になっている。外部の研修に多くの職員が参加できるように配慮する。内部での研修会を参加しやすい形で確実に実施している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	1	引き続き、委員会を通して、複数の目で十分な審議を経るよう心がけている。		

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こすもけあくらぶ (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 10日		2025年 2月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	0	(回答者数) 0
○従業者評価実施期間	2025年 1月 10日		2025年 2月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	*児童発達支援を実施する際は、障害の重い子や医療的ケアのある子への支援	*児童発達支援を実施する際は、看護師や保育士等が専門的知識を活かしてチームとして関わっていく。	*児童発達支援を実施する際は、個に応じた丁寧な支援を実施していく。
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	*児童発達支援を実施する際は、活動スペースの確保や医療的ケア児の個々の特性に合わせた活動内容の検討。	*児童発達支援を実施する際は、看護師、保育士、専門職等がチームでかかわれるような体制をつくりたいが限られた時間の中では難しい。	*児童発達支援を実施する際は、本人の成長段階におけるニーズ、課題を検討し、保護者の意向もお聞きしながら、多職種による支援をしていきたい。
2			
3			

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	こすもけあくらぶ (児童発達支援)
------	-------------------

公表日 2025年 3月 29日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。				* 児童発達支援を実施する際は、一人ひとりが理解しやすいように表示等を工夫していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。				* 児童発達支援を実施する際は、事業所の評価や保護者等の意向等を把握していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。				* 児童発達支援を実施する際は、アセスメントに基づいた児童発達支援計画を作成する。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		○		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。				* 児童発達支援を実施する際は、児童発達支援ガイドラインに沿って、具体的な支援内容を設定していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			



供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。				* 児童発達支援を実施する際は、個別、集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成する。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。				
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。				* 児童発達支援を実施する際は、モニタリングを実施し、計画の見直しをしていく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。				* 児童発達支援を実施する際は、各機関と情報を共有していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		* 児童発達支援を実施する際は、交流・活動していきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○			
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。				* 児童発達支援を実施する際は、こどもや家族の意向を確認していきたい。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。				*児童発達支援を実施する際は、支援内容の説明や保護者からの同意を得るようにしたい。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○				
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。					*保護者との情報交換の場は大切にしていきたい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○				
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○				
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○				
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○				
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○				*今後も地域住民を招待する機会を増やしていきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			各種マニュアルを検討、策定し、研修会や防犯訓練等を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			BCPを策定し、避難訓練等を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○				
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○				
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○				
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○				
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○				
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○				外部の研修会に参加を募ったり、内部での研修会を定期的の実施している。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。					*児童発達支援を実施する際は、児童発達支援計画に記載する。	